

令和3年2月1日現在の世帯数と人口

(千種区 18.18Km²)

学区名	世帯数	人 口			対前月増減	
		総数	男	女	世帯数	人口
1 千 種	5,512	8,750	4,440	4,310	△ 6	△ 16
2 千 石	4,074	6,808	3,439	3,369	6	△ 3
3 内 山	5,802	7,946	4,196	3,750	△ 10	△ 18
4 大 和	3,483	6,752	3,343	3,409	△ 4	7
5 上 野	7,420	15,512	7,689	7,823	△ 16	△ 22
6 高 見	7,430	13,415	6,403	7,012	18	5
7 春 岡	7,035	11,082	5,785	5,297	△ 21	△ 19
8 田 代	11,548	21,909	10,607	11,302	△ 10	△ 17
9 東 山	10,474	19,470	9,604	9,866	△ 2	△ 5
10 見 付	4,395	8,155	4,138	4,017	39	32
11 星ヶ丘	3,559	6,931	3,144	3,787	△ 13	△ 21
12 自由ヶ丘	3,551	7,176	3,271	3,905	19	38
13 富士見台	6,501	15,283	7,076	8,207	△ 15	△ 24
14 宮 根	3,899	8,181	3,877	4,304	2	△ 10
15 千代田橋	3,736	8,436	3,963	4,473	△ 5	△ 5
千 種 区 計	88,419	165,806	80,975	84,831	△ 18	△ 78
R2.2.1	87,828	166,012	81,099	84,913	59	135
対 前 年 比	591	△ 206	△ 124	△ 82	△ 77	△ 213
名 古 屋 市	1,130,037	2,326,844	1,148,352	1,178,492	218	△ 879
愛 知 県 (R2.1.1)	3,271,871	7,536,639	3,768,447	3,768,192	1,429	△ 1,033

前月中の増減内訳	自然動態			社会動態		
	出 生	死 亡	自然増減	転 入	転 出	社会増減
	88	191	△ 103	813	788	25

【参考】

国勢調査千種区人口				これまでの最大人口	
昭和55年	166,837	平成12年	148,537	173,598 (昭和50年2月1日)	
昭和60年	163,762	平成17年	153,118		
平成2年	156,478	平成22年	160,015	これまでの最少人口	
平成7年	148,847	平成27年	164,696	146,727 (平成11年4月1日)	

注) 世帯数と人口は、平成27年国勢調査結果確定値を基礎とし、毎月の住民基本台帳人口の異動数を加減して推計したものである。

千種区の性比の状況

今回は、千種区の性比（女性の人口を100とした場合の男性の人口数）の状況をみてみます。

図1：名古屋市全体および各区の性比（各年10月1日）

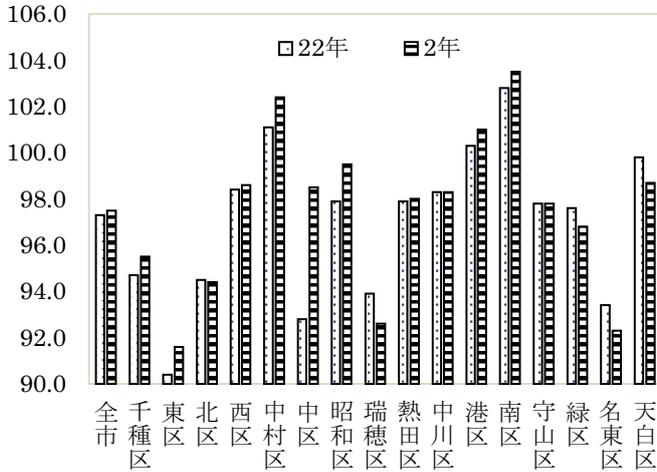


図1は名古屋市全体と各区の性比を示しています。千種区の令和2年10月1日現在の性比は95.5です。これは名古屋市全体（97.5）を下回っており、16区中12番目に低い値となっています。性比が最も高いのは南区（103.5）、最も低いのは東区（91.6）です。平成22年と比較すると千種区は94.7から0.8上がっており、名古屋市全体では中区が一番上がって5.7増えています。

図2：年齢5歳階級別の性比（令和2年10月1日）

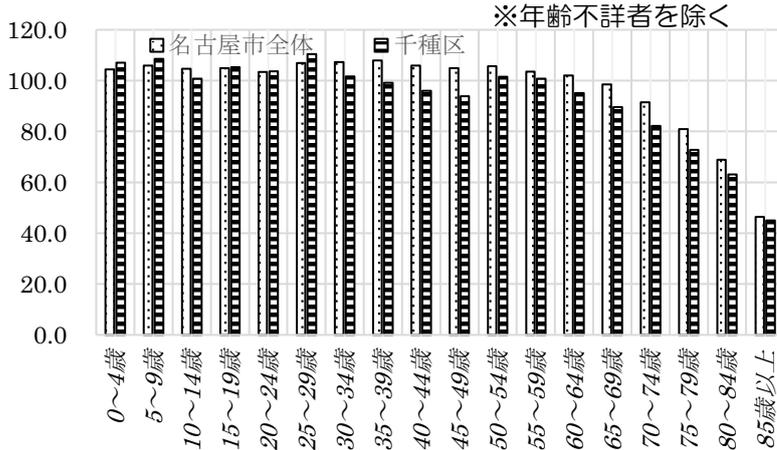


図2では、名古屋市全体と千種区の年齢5歳階級別の性比を示しています。千種区では0歳～34歳の区分で平均105.3と高い一方、30歳からは50歳～59歳以外で100を下回っています。一方、名古屋市全体では0歳～64歳の全ての区分で100を超える数値となっています。

65歳以降の年代では100を下回り右肩下りの減少傾向にあります。

図3：各学区別の性比（各年10月1日）

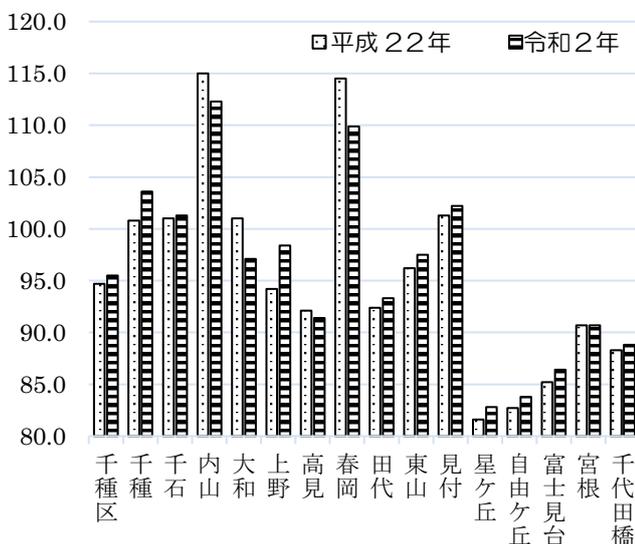


図3では、千種区内の各学区の性比を示しています。令和2年10月1日現在で性比が最も高いのは内山学区（112.8）、最も低いのは星ヶ丘学区（82.8）でした。

また、平成22年10月1日現在の性比が最も高いのは同じく内山学区（115.0）、最も低いのは星ヶ丘学区（81.6）でした。両年を比較すると、10年間で性比が高くなった学区は11学区、低くなった学区は4学区でした。